

地域闘争とコミュニケーション運動

ひろし おせき

「弥栄の運動はコミュニケーション運動

とちやうのんちがうか」と言い出したのは、ハさくらんはエートピアVとかハ私都村Vとかの共同体巡りをしてきたA子さんの感想である。

また福岡県柳川市のハ柳下村塾Vを訪ねてきたB君は、「弥栄の運動は「コミュニケーション運動」というより、柳下村塾の運動に良く似た地域闘争、住民運動ではないか」と話してくれた。

「ここで我々にとって問題なのは「コミュニケーション運動とは何か」「地域闘争とは何か」という定義付けの向題ではない。そつてなくて、今までの社会運動が、あるいは社会の変革をめざすあらゆる運動が、余りにも

その理論や理想とは裏腹に、現実になて社会に根を下ろしていなかったという事

判りきったことを取えて断言するならば——あらゆるコミュニケーション運動は社会運動であり、あらゆるコミュニケーション運動は地域闘争である。

これは、我々が、既成の左翼運動、社会運動の批判的総括の後に「コミュニケーション志向を持ちはじめた時のハ初心Vだったのではなかったか。

例えは、まぶ生活者大衆（団地のおばはんや農民たち）と話し合える

言語と話題をもつこと。次にトラックや耕運機を運転し、修理できること、クワやスコップの合理的な使用方を知っていることなどはもちろんだ。それにニワトリや牛など生き物の扱い方、その生理を知っていること等々……

要するに、青白きインテリのカチカチの観念と、小器用に作り上げた能書きでは、いれゆる社会運動も革命もできないってことだ。おばはん連中とのワイ談の中から革命の芽を育てていくってというのが、我々弥栄の戦術なんだ。

弥栄はおもしろなりかかっている。壁新聞が張り出され、10日に一度の部落新聞が配られ、我々のことをハキョードータイムと呼んでいる。それかけつこう様になっっているんだから。二のような非日常が日常になっっていくのは地域闘争の勝利だろう。